様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２６ 年　 ５ 月 ２３ 日現在

機関番号：３４１０１
研究種目：基盤研究(C)
研究期間：2011～2013
課題番号：２３５２００８８

研究課題名（和文）近代の伊勢神宮改革と御師制度廃止に伴う伊勢信仰の相克に関する基礎的研究

研究課題名（英文）Basic Research concerning the Ise Faith Conflicts following Modern-Day Reorganization of Ise Grand Shrine and the Abolishment of the Onshi System

研究代表者
櫻井　治男（SAKURAI, HARUO）

皇學館大学・文学部・教授

研究者番号：００００８７７３５

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　4,000,000円、（間接経費）　　1,200,000円

研究成果の概要（和文）：　本研究の目的は、明治維新を転機とする日本社会の変革状況のなか、新政府の下で実施された伊勢神宮の諸改革の影響による伊勢信仰の持続と変容の解明にある。特に神宮と在地とを繋いでいた御師の制度廃止と旧御師家の活動・生活実態につき岩井田家所蔵資料の活用を図った。
その結果、①未公開資料約2万点のうち半数の目録化を完了し、資料の展示公開を行うことで研究及び資料の重要性を示した。②旧檀那地域の調査により、在地と岩井田家との関係が1930年代後半まで続き、伊勢信仰の持続性とかかわる点を明確にした。③参宮者の伊勢における宿泊面で、近代的な旅館業との競争原理のなかで旧師職家の役割が衰退する動向を明らかにした。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this research is to analyze the continuance and changes in popular belief at Ise Jingu, after the Meiji Restoration in 1868. One of the big changes caused by the new government was to abolish the Onshi System which had played an important role in making a close connection between Ise Jingu and local people. Our research project got a chance to survey about 20,000 documents which are owned by the Iwaida family. The result is as follows:1st about 6,000 documents were listed for catalogue; 2nd the group of documents is mainly divided into five varieties, i.e. historical documents as the Shinto priest; documents of Onshi after the abolishment of the Onshi System; a sort of letters and account books which shows the keeping of the connection among local customers. And we made it clear that the connection between local people and the Iwaida family continued until the 1940s.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：哲学・宗教学

キーワード：近代の伊勢神宮　御師　大物忌父岩井田家　神宮大麻　参宮と宇治山田　伊勢信仰　社会変動と神道

１．研究開始当初の背景

日本近代の宗教史を理解する上で、伊勢神宮の存在は重要な位置を占めている。なかでも近代国家の形成過程と伊勢神宮の役割については、国内外の研究において関心のもたれてきたテーマであり、国家神道論の議論上において、天皇祭祀の場としての伊勢神宮と宮中祭祀との一体性との問題などに焦点が当てられてきた(村上重良『国家神道』1970 年、島薗進『国家神道と日本人』2010 年など)。一方、こうした議論とは別に、近代以降の神宮史を神道の内側から史料に基づきつつ解明する研究も提示されているが(阪本健一『明治神道史の研究』1983 年、『神宮・明治百年史』1988 年)、いずれにせよ伊勢神宮の近現代を語る上での出発は、明治維新期の諸変革の実態的な研究に置く必要が重視される。

その主テーマとしては、①明治元(1868)年にはじまる、伊勢神宮の鎮座地における神仏分離政策の展開とその影響、並びに②明治 4(1872)年に実行された神宮の諸制度改革である。②については、近代における国家・天皇と神宮との関係性の再定置を図るものであったが、そのためには、従前の伊勢神宮における祭祀組織の解体と再編、そして中世以来、神宮の神職集団が開発、依存してきた一般民衆との関係を解消する「御師」制度の廃止という内容を伴うものであった。①について研究代表者の櫻井治男は、「宗教都市における神仏分離の実態的研究－伊勢神宮の門前町『宇治・山田』を中心に－」(平成 18－20 年度科学研究費補助金〈基盤研究（C）一般〉：課題番号 19520069)を行なってきが、②について、特に約 700 軒あったとされる「御師」(師職)の廃止という問題は、明治維新前後及びその後の研究資料については散逸や破棄などの課題もあって未着手の状況であり、わずかに西川順土『近代の神宮』(1988 年)、同「廃止前後の御師」(『歴史手帖』12-7、1984 年)などの研究が提示されるにすぎなかった。

これまで研究代表者(櫻井治男)、連携研究者(齋藤平・谷口裕信・濱千代早由美)、研究協力者(八幡崇経)は、伊勢市史・民俗編の編さん事業（平成 13 年 4 月～21 年 3 月)及び同市史・近代編(平成 18 年～23 年)に携わり、その一環として、伊勢神宮の祭祀職である「大物忌父職」という重要な祭儀の担当を家職とするとともに、御師として関東地方を中心に 13 か国に檀那（家）を有する岩井田家の伝来の、近世～近代の未公開資料調査を、同家の特別配慮により実施し、調査提示された資料の約 5 割（2000 点余)の目録カード化を終了した。そして、八幡崇経(佐賀県唐津市・呼子八幡宮宮司、皇學館大学神道研究所研究嘱託)は、櫻井治男、濱千代早由美との協同で残る岩井田家資料のカード化につとめてきた(平成 22 年度財団法人福武学術文化振興財団助成)。

こうした基礎的な資料目録作成作業により、岩井田家未公開資料のおおよその内容を把握し、特に明治維新期に御師制度が廃止となったとはいえ、同家と旧檀家・地域との関係が昭和 10 年代まで継続されていることが明らかになり、これらの資料を活用し、旧祭祀職・旧御師職の両職にまたがる岩井田家の近代の変化を通して、神宮改革に伴う御師廃業後の実態が明らかになる可能性が一段と高くなってきた。また、このことが、近代以降の伊勢神宮が直接発信主体となる布教活動(神宮大麻の頒布など)の趣意とは異なる、民衆側からの伊勢信仰受容のあり方を窺えることが明らかになりつつある。

資料調査は今後とも継続が必要であるが、現在的には次の研究展開へとつなげて行く重要な時期にあると認識されるところから、これまで関係のあったメンバーを中心に共

同研究の組織体制を整え、本格的に稼動する状況を創出したことが、本研究を行う背景である。

２．研究の目的

岩井田家は、既述のように伊勢神宮の内宮における祭祀職である「大物忌父」を鎌倉時代以降担ってきた家で、現当主は第19代目にあたる。「大物忌父」とは、神宮祭祀のうち神饌・玉串の奉奠、正殿御鍵の取り扱いなど神秘に関わる行事を勤める童女の補佐役であるが、実際は童女として困難な職掌業務全般に関わってきた。また、御師職として山城国、河内国、摂津国、丹波国、伊賀国、伊勢国、尾張国、駿河国、武蔵国、下総国、上野国、下野国、信濃国に及び、大麻の配札は、約14,000体であった。歴史的にも、また師檀関係も広域にわたるところであり、3 年の期間内に可能な研究内容として、以下の5点を目標とした。

(1)岩井田家資料の再確認と研究資(文書)のデジタル化及び整理

(2)御師制度の廃止後の岩井田家と旧檀家との関係解明

(3)伊勢神宮の祭祀組織解体と岩井田家の役割解明

(4)伊勢(宇治･山田)における御師廃止と当該地域への影響

(5)岩井田家未公開資料の公開

岩井田家伝来資料の内、冊子等のまとまったものについては、第2次大戦後、神宮文庫(伊勢市)へ434点寄贈されている。しかしながら、その後、資料の本格的な調査は行われてこなかった。この反省に立ち、当研究グループは、未公開資料の全容把握を主眼とする活動を行なってきた。

これにより、岩井田家伝来資料が、伊勢神宮の祭祀職家の資料としては、内容が多岐にわたっていることが明らかになり、また旧御師職関係の資料は、調査用に提示された時点では、近世から明治の神宮制度改革を経て、昭和初年までの資料 4000 点余(現在は約2万点を予想)が残っていることが判明した。岩井田家が立地する周辺は、第2次大戦中の空襲で神宮施設の一部と民家に火災被害が発生したが、同家はその難を免れたことも資料伝来にとって幸いであった。いずれにせよ同家の資料群は近代における伊勢信仰の変遷を研究する上でも大変貴重な発見といえる。

このことをふまえて、上記5点の目標を立てた意図は、(1)のように残存資料の再確認と研究上の利便を期すための資料のデジタル化を図り、それにより整理を行なうことで、(5)への展開を目指すこととなる。資料所蔵者との交流のなかで、強い信頼関係を構築することが出来、門外不出とされていた資料群の調査が可能である好機に、所蔵者の意思を受けて学術研究への活用を促す役割を考えた。

(2)について、残存資料を垣間見た限りでは、岩井田家が旧武蔵国、現在の埼玉県に檀家を有し、私的な師檀関係が第2次大戦前まで継続されている事実を鑑み、このことを通して伊勢信仰の持続と変容の一端を解明することを目指した。また、(3)旧祭祀職家としての岩井田家の役割は明治4年に失われるが、神宮における近代祭祀制度の出発以降に、同家の人物が神宮職員として職責をつとめており、祭祀職家の伝統意識と新制度との相克において、伊勢神宮の近代とは何かを内部的に解明することとした。

また、本研究上の基礎資料を伝来する岩井田家以外に、旧御師職を家職とする家数は明治維新期に大小約700軒あったが、それら一部師職と檀家の関係は歴史的な諸研究はあるが、近代以降の消長について総括的な研究はなされておらず、岩井田家の立場を理解する上でも、その概要を明確化する作業は必要であり、この点を視野にいれて(4)の目標を設定している。

以上の目標との関連において敷衍すると、実際の資料を活用しながらの研究は、御師の歴史や社会経済史的研究、神宮祭祀職の変遷の歴史的解明を目指すものではなく、社会変動における日本近代宗教の変化を、伊勢神宮と民衆との関係性に着目して解明するもので、これまでこうした研究は国内外において行なわれておらず、対象資料の活用状況及び研究視点の置き方に特色を有している。

３．研究の方法

3 年間における本研究は、大きく次の 5 点を、各年度計画に従って進める方法をとった。

①3 か年は、基本として岩井田家伝来資料の全容把握のための目録化作業と既存調査、必要資料のデジタル化と活用に向けての整理・文書資料の解読。

②初年度・2 年度における、旧檀家地域(埼玉県)を対象とした調査研究。

③初年度・２年度における伊勢における旧師職家の廃止とその後の動向研究のための研究枠組み設定と調査研究。

④初年度・２年度学会発表及び最終年度における研究成果報告会を通した情報公開と関係情報の交換（資料特別展示会)。

⑤各年度における研究進捗確認のための勉強会の開催。

４．研究成果

期間中は年度末及び年度初の打合せ会を実施し、以下の 5 点の方向性で研究内容の焦点化を行うことができた。(1)岩井田家資料（当初提示された資料数を上回り、約 2 万点に及ぶことが判明）の目録化と全体像の早期把握を進める。(2)岩井田家旧檀那地域における伊勢信仰の持続と変化の事例抽出として埼玉県久喜市・加須市等を中心に現地調査を数回行う。(3)御師制度廃止に伴う神宮大麻配札と地域における受容問題を明らかにする。(4)伊勢の近代における参宮者受入にかかる神宮改革の影響問題の一端を解明することができた。この内、(1)について、岩井田家資料は、家乗や美術工芸品類を除き、①物忌父職・近代の神宮職員としての資料、②神宮改革以後の神宮祠職・御師の状況を知る資料、③近代以降の旧御師と檀家地域の伊勢信仰にかかる資料、④岩井田家を通して伊勢の近代を知る資料、⑤館町時代の神宮皇學館の教育や学生生活にかかる資料に着目することが必要であり、特に①～④の資料群が特色であり、研究活用度の高いことを明らかにすることができた。また、6000 件の目録データ処理を終えた。

(2)(3)は岩井田家資料を通して、旧檀那地域と同家とが昭和 16 年頃まで関係が続けられていたこと、また現地調査により、地域によっては平成 20 年初頃まで伊勢講が続けられていたことを明らかにした。このことは、御師制度の廃止後も旧檀那地の人々は、旧御師が宿泊や参拝にかかる受け皿を有している場合、何らかの形でそれを便りにする関係性が継続していたこと、またそのことが伊勢講継承にも関係することを示すものといえる。一方、岩井田家も当初は積極的に旧檀那地への参宮者呼び込み活動を行っていたが、やがて両者間で徐々に関係性が減少して行くことが浮かび上がってきた。また、岩井田家資料によれば、廃止後の旧御師達の参宮者受入ネットワークの存在もうかがえるところであり、今後の研究に興味深い事例を提示することができた。

こうした旧御師の活動が、伊勢神宮の鎮座する伊勢の近代化と新たな社会形成にどのような影響関係にあるかなどを具体的に研究する上で、岩井田家資料が有する高い価値を、未公開資料特別展を通して発信した。特別展開催中（平成 26 年 2 月 25 日～

27 日）は短期間にも関わらず 220 名の見学があり、本研究チーム全員で随時展示品の解説を行い 3 年間の研究成果を披歴した。また、テレビ放映 1 社、新聞 4 社での記事掲載があり御師廃止と伊勢信仰の持続と変容を明らかにする意義と岩井田家資料の重要性について関心を高めることができたことは大きな成果と言える。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計　3 件）
①櫻井治男、近代以降の「神宮大麻」、三重県史　別編民俗、査読無、三重県、2012 年、785－794 頁
②谷口裕信、近代の伊勢参宮と宇治山田の旅館業、明治聖徳記念学会紀要、査読有、復刊第 50 号、2013 年 11 月、139－153 頁
③濱千代早由美、明治維新前後の神宮神職家のイエ儀礼、明治聖徳記念学会紀要、査読有、復刊第 50 号、2013 年 11 月、154－172 頁

〔学会発表〕（計　6 件）
①八幡崇経「近代の御師制度廃止と伊勢信仰について」、日本宗教学会第 71 回学術大会、2011 年 9 月 8 日、皇學館大学
②八幡崇経「伊勢神宮における御師制度廃絶後の伊勢講と旧師職家」、神道宗教学会第 64 回学術大会、2011 年 12 月 4 日、國學院大學
③櫻井治男「御師制度の廃止と伊勢信仰に関する研究 の意義」／八幡崇経「神宮大麻の頒布制度の変化と伊勢講の再編」／濱千代早由美「参宮道者の死と御師邸のケガレ― 武州北埼玉郡の旦那の客死― 」／谷口裕信「近代伊勢参宮の宿について― 旧檀家に残された旧御師の書簡の分析から― 」／コメント・杉山林継／司会・齋藤平、神道宗教学会第 65 回学術大会「パネル　御師制度の廃止と伊勢信仰― 岩井田家資料とその周辺― 」、2012 年 12 月 2 日、於・國學院大學
④櫻井治男「「伊勢参宮と神宮の聖地性 ―宮域と町と参宮者の信仰と意識―」、日本宗教学会第 72 回学術大会・大会開催校特別パネル「聖なる場としての伊勢神宮―その聖性を考える―」、2013 年 9 月 7 日、國學院大學
⑤八幡崇経「伊勢神宮の式年遷宮と御師」、日本宗教学会第 72 回学術大会、2013 年 9 月 7 日、國學院大學
⑥八幡崇経「伊勢御師の地域での活動実態について― 北埼玉郡の事例― 」、神道宗教学会第 66 回学術大会、2013 年 12 月 8 日、國學院大學

〔図書〕（計　1 件）
①濱千代早由美（編集主務）・谷口裕信・櫻井治男／協力（斎藤平・八幡崇経）、皇學館大学文学部櫻井研究室、『岩井田家未公開資料特別展館町の御師』、2014、26

〔産業財産権〕
○出願状況（計　0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計　0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等
http://www.kogakkan-u.ac.jp/html/cmscontents/detail.php?mdid=2183
岩井田家未公開資料特別展冊子(修正版(第 2 刷)

６．研究組織
(1)研究代表者
櫻井　治男（SAKURAI,Haruo）
皇學館大学・文学部・教授
研究者番号：00087735

(2) 連携研究者
皇學館大学・文学部・教授
齋藤　平（SAITO,Taira）
研究者番号： 70247758

(3)連携研究者
谷口裕信（TANIGUCHI,Hironobu）
皇學館大学・文学部・准教授
研究者番号：10440835

(4)連携研究者
濱千代早由美（HAMACHIYO,Sayumi）
皇學館大学・文学部・非常勤講師
研究者番号： 60599520